文学的文章　心情・人物像の捉え方

　黒のユニフォームを着た修は、教室に入るとたちまちみんなの人気者になった。男の子たちは、修の周りに集り、さまざまな批評や感想を加えたが、修は気にならなかった。いち早く修の姿を見た広瀬先生が、母の作ったユニフォームと知って誉めてくれたからだった。女の子たちが自分のことを囁き合っているのも快かった。廊下ですれ違う上級生や先生たちも、みんな修を振り返り、何かと声をかける。修は［　　］だった。

【午後の体操の時間は学級対抗のソフトボール試合だった。修はその日も正選手の人数が足りなかったので、レフトについた。修はユニフォームを着た分、身がひきしまり、上手になった気がしたが、結果は散々だった。

　その試合でレフトに飛んで来たフライは五球もあったが、いずれも修はボールを捕れなかった。バッターに立っても打てず、三振とピッチャーゴロのノーヒットに終った。

　バッターボックスに立つたびに相手側から「黒バッタ」「黒バッタ」の野次が飛び、上ってしまったせいもある。広瀬先生がにこやかに励ましてくれたことだけが修には唯一の救いだった。

「ただいまッ」

　ランドセルを※上り框に放り投げると、洗濯物を畳んでいた母が心配顔で修を迎えた。

「オサム、どうだった？　ユニフォーム」

「みんな、びっくりしてた。すごいって」

「よかった。馬鹿にされたんじゃないかと思って心配してたわ」

　母は①眉根を開いた。

「みんなにからかわれたら、母さんが出てってやるからね」

「そんなことなかったよ」

　修は②「黒バッタ」とからかわれたことはいうまいと思った。折角、夜なべして母が作ってくれたユニフォームだ。

「みんな、いってたよ。格好いいって。母ちゃんにいって、おれみたいな黒のユニフォーム作ってもらうべって」

「そうかい、そうかい。友だちはみんなそういってたかい」

　母は顔をくしゃくしゃにし、目を細めた。修は嘘をつくのが少し後ろめたかったが、喜んでくれればいいやと思うのだった。】

（森詠『オサムの朝』集英社　による）

※上がり框…家のあがり口に取り付けられる横木。

例題

［　　］に当てはまる言葉として最も適当なものを選びなさい。

ア　一喜一憂　　イ　疑心暗鬼

ウ　冷静沈着　　エ　得意満面

〔　　〕

心情・人物像の読み取り

文学的文章では、
・きっかけとなる出来事が起こり、
・登場人物の心情が変化し、
・心情が言動や表情に表れる。

心情を捉えるためには次の内容に注目する。
①「誰の」心情か（主語）
②「誰・何に対する」心情か（対象）
③「どんな」心情か（心中）

心中は直接書かれるだけでなく、会話、動作、表情、情景描写に表れることも多い。

（例）目を丸くした。思わず体をのけぞらせた。
↓驚きなど
進む先にはどんよりとしたくもり空が広がっていた。
↓憂鬱など

また、登場人物ごとの人物像を理解しておくと、物語の展開が捉えやすい。
・人物の設定（年齢・性格・職業）
・人物がおかれた状況・境遇
・人物の価値観や考え
などに注目して読み進めるとよい。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1)【　】の箇所を二つの場面に分け、後半の最初の三字を答えなさい。ただし、記号も一字に含む。

(2)——線①「眉根を開いた」が表す心情を、直前の会話文を参考に選びなさい。

ア 安心した　**イ** 怒りがわいた　**ウ** 不安になった

［　　］

(3)——線②「修は『黒バッタ』とからかわれたことはいうまいと思った」とあるが、なぜ修はこのように思ったのか。適当なものを選びなさい。

ア 自分がかいた恥を隠し、見栄を張ろうとしたから。
イ 自分を理解しようとしない母にあきれたから。
ウ 自分のために夜なべしてくれた母を思いやったから。

［　　］